

令和5年度 学校評価に係る自己評価 加古川市立八幡小学校

【教育目標】 たくましく心豊かで 共に学び続ける八幡っ子の育成

【目指す児童像】 やさしい子 心豊かで、認め合い高め合う子(徳)
はげむ子 自ら考え、学び続けける子(知)
たくましい子 心身ともに健康で、活力のある子(体)

【指導目標】 人を思いやる心、共に生きる心の育成(徳)
自ら学ぶ力の育成(知)
自ら健康・体力づくりに励む子の育成(体)
信頼される教職員としての資質向上
地域とともにある 開かれた学校づくり

【評価基準】 今年度の本校の取り組みとして
A 達成している B 概ね達成している C 十分には達成していない D 達成できていない

目標	No.	評価項目	学校自己評価			関係者評価
			達成状況	総合評価	成果と課題	
育成 心、共に 生きる 心の	①	互いに認め合い、個性や特性を受け入れ、自尊感情を高める人権教育を推進します	A	A	○児童に声をかける際、言葉の選び方・伝え方について改善する必要がある。教師が一時的に話をするのはなく、子ども達自身に考えさせ、問いかけながら指導をしていく事に注力する。 ○授業者等が伝えたい内容について、児童に個人差がある為に全員が理解していないことがある。全員に伝わるように意識して話したり指導したりし、最後には確認する事も加えたい。 ○道徳の授業はしっかりと確保する。今年度は研究授業を行ったことで、道徳の実践力は伸びているように感じた。 ○休み時間の過ごし方に課題がある。廊下を走る、雨の日でも外で遊ぶ、基本的なルールへの意識をもっと学校全体で高めていく必要がある。 ○縦割り班の継続的な活動(月1回の遊び、防災教室、ハロウィンパレード、なかよし集会)ができた。オオズメバチの件で外で遊べない時に、高学年が室内で遊ぶ機会を持つなど、臨機応変に対応できた。掃除も、違う学年の所を手伝って掃除したり、声掛けをしたり協力できていた。 ○授業中にグループで話し合う機会を持つことを意識した。活躍の場が増えて、友達と助け合い、学ぶ楽しさを感じる児童が増えている。	○縦の繋がりは大切なことです。縦割り班活動が充実した令和5年度だったようですね。ホームページでも確認することができました。 ○児童が主体的な活動を通して、人を思いやる心や共に生きる心の育成に繋げてほしい。
	②	心に寄り添う生徒指導、いじめ防止対策に全力で取り組みます	A			
	③	考え、議論する「道徳の時間」を要し、道徳的実践力を育成します	A			
	④	規範意識の育成、基本的な生活習慣の定着に努めます	A			
	⑤	児童の主体的な活動を通して、生きる力につながる特別活動の充実を努めます	A			
自ら 学ぶ 力の 育成	⑥	「協同的探究学習」を核とした授業改善を推進します	A	A	○普段の授業から協同的探究学習を意識して取り組むことができた。特に、児童が十分に考える時間を確保できた。問題解決の道筋を持てる児童が増えているように思う。 ○例えば「聞く」なら、「聞く力」を伸ばすと、目標を立てて、そこに焦点をあてた教育活動に担任が取り組むことで、八幡っ子の弱ところを伸ばしていきたい。音読交流会のように、学習成果が、隣接学年等で、確認できる活動があるとうい。 ○児童が「わからない」「もっと知りたい」ということを言語化できる力や環境を整えていくことで、自ら学ぶ意欲を高めていきたい。 ○ボイスルーラーを使って、大きな声で発表する力を伸ばす取組みもよい。 ○朝の学習を系統立てて取り組むことで、国語の基礎・基本の習得の徹底を続けたい。内容も充実させたい。 ○読書活動の推進に力を入れた。週一回図書室での貸し出しに努める、カードの活用をするなど、図書室を活用して、読む力を伸ばしていきたい。 ○ユニットの連携として、やはたこども園が音楽学習発表会の見学など、コロナ禍よりも少しずつ交流が増えている。	○児童アンケート結果を見ると、各学年の1日の学習時間は把握できる。1日にゲームをする時間を質問して把握してもよいのでは。 ○家庭で進んで学習している児童が少ない。「学ぶ楽しさ」など学習に前向きになれるような課題(宿題)を担当から出すことを心掛けてみてはどうか。 ○学年ごとに家庭での学習時間を設定して、その時間を目標に児童が学習に取り組むということをやってみては。
	⑦	主体的に学ぼうとする意欲を育てる学習指導の充実に取り組みます	A			
	⑧	系統立てた指導による基礎・基本の習得の徹底をめざします	A			
	⑨	一人一人の教育的ニーズを把握し、個に応じたきめ細やかな指導に努めます【兵庫型学習システム(算数教科担任)を含む】	A			
	⑩	「学校園連携ユニット」に基づき、連続した学びの充実をめざします	A			
健康・ 体力 づくりに 励む 子の 育成	⑪	自らの目標をもち、年間を通した体力づくりを推進します	A	A	○体力づくりということで、運動会・水泳・長距離走・長縄・短縄と年間を通じて行っている。 ○体力テストの結果をデータ化して、校内研修を持ち、運動能力・体力向上への取り組みにつなげたい。 ○防災教育は充実していた。(海上保安本部による水難事故防止教室も)県警ホットラインを使った避難訓練も新鮮であった。	○女性会で下校時のパトロールボランティアに取り組んでいます。この数年で下校する児童をほとんど見かけなくなった。年々児童数が減っているのが気になります。 ○外遊びをする児童も減ったし、自転車に乗っている児童もほとんど見かけません。 ○小学校1年生(保育・幼稚園児)から情報モラルについて学んだり考えたりする機会には必要な時代となっている。来年度以降も情報モラル・ネット犯罪トラブル等の講座は開催したほうがよいですね。
	⑫	発達段階に応じた指導を通して、健康で安全な生活の習慣化を図ります	A			
	⑬	すべての教育活動を通して食育を推進します	A			
	⑭	危機管理能力を育成し、実生活に生きる防災教育の充実を努めます	A			
	⑮	家庭や地域と連携し、情報モラル教育を進めます	A			
	⑯	感染症対策への適切な対応と理解の深化に努めます	A			
と 信 頼 さ れ る 資 質 教 育 職 員	⑰	実践的指導力、多面的な児童理解力、多様な価値観を認められる人権感覚の向上に努めます	A	B	○教師も児童もICT活用能力が年々向上しているように思う。 ○欠席フォームが保護者も教師も活用できている。 ○自分で「帰宅」の目標を設定して頑張る。計画的に取り組む。 ○講師を招いて会議の進め方を教えてもらい、時間の短縮方法を実践する。 ○総合評価がB(満足している)なので働き方改革が進めにくいのかもれない。 ○働き方改革の会議(検討委員会)を確保したい。できることをみんなで考えることで、教師全員が定時に帰ると意識がさらに高まるのではないかと。 ○ペーパーレス化をもっと進めたい。データ化することで、印刷時間も、配る時間、整理する時間も短縮となる。また、会議のスタート時刻を少しでも早く始めたい。 ○OSAやSSSの支援が大変ありがたい。給食時の配膳補助も効果的であった。	○教師も児童もICT活用能力が年々向上しているのは素晴らしい。活用する機会(友達同士でフォロー・児童がアンケート・授業で活用)も増えている。 ○勤務時間の適正化に向け、先方ですっきりと話し合う場を設けて、皆さんの負担をできるだけ少なくするようにしていきたい。
	⑱	超スマート社会の学びに対応できるICT活用能力の向上に努めます	A			
	⑲	勤務時間の適正化に向けて、業務の合理化及び精選に努めます	C			
地 か 域 れ と と 学 校 に あ る り 開	⑳	学校運営協議会と連携して、開かれた学校を目指して地域との協働を推進します	A	A	○ホームページの更新を十分したことによって、家庭や地域へ情報が伝えることができた。 ○学級通信的なものをクロームブックでも伝えられたが、写真の取り扱いなどのこともあるので、ルールの整備が必要である。 ○ゲストティーチャーは活用でき、充実した学習ができた。今後も、計画的に積極的に活用していきたい。 ○図書ボランティアさんはとてもありがたい。教師の数が少なく、図書室や本の管理まで手が回らないので、ボランティアさんのおかげで図書室が充実しています。本の読み聞かせも子どもたちは興味をもっている。どういって態度で本の読み聞かせをしたらよいのかということも学べました。	○今後も地域の力を利用し、学校・保護者・地域が連携しながら、学校教育目標の具現化に努めてもらいたい。 ○地域全体で児童を見守って、いこうという雰囲気があり、親同士の繋がりが強い。また、子ども達は地域の行事にはよく参加している。
	㉑	学校からの積極的な情報発信により、保護者や地域と情報の共有化を図ります	A			
	㉒	ゲストティーチャーやボランティアの積極的な活用を図り、教育の広がりや深まりを目指します	A			